



男子アルペンの4年後への期待は大越龍之介(東海大)。野沢のスプリングで膝の靭帯を断裂したが新シーズン中の復帰は可能な見込み。ワールドカップで1度2本目に進めば爆発的な勢いを発揮することが期待できる

ピックシーズズン

バンクーバーオリンピックでは女子は出場すらできず、男子は入賞が速く、そのうえ「三つ目の出場枠をSAJが断った」という報道がなされた日本アルペン。4年後に期待をもつことがすぐにはできない状況だが、まったく光明がないわけでもないし、3枠目に関する報道には重要な部分が抜けていた。4年前とは違い、残念なことが多かった09/10シーズンだが、2014年のソチ(RUS)に向かってスタートを切るためにも決着を付けなければならないことは少なくない。

松尾潤之介・文 photo&text Jun MATSUO

「国内最終レース。日本アルペンは2014年のソチオリンピックピックに向けたスタートを切ることができたのか」

選手の成長を感じることができなかったシーズン

今年の国内最終レースは活気がなかった。結果の出なかつたオリンピック、女子は出場すらできなかった。おまけに、全日本選手権はナショナルチームのトップ選手が出場できるようにカレンダーを変更していたにも関わらず、チームは選手に出場を打診することも義務付けることもなかった。ヨーロッパのナショナルチャンピオンシップのリザルトを見ればワールドカップで活躍している選手の多くは出場している。かつての自分がそうであったように、後輩にFISポイントを獲得できるチャンスを与えるために、自分自身のためにならなくても出場して貢献している。しかし、日本チームのトップの姿は全日本選手権になかった。おまけに、男子の全日本選手権SLは基礎スキーにも挑戦している生田康宏(東京美芝)に優勝をもっていかれている。これでは盛り上がりがない。さらに言えば、レベルの高い選手が多く選ばれている男子のジュニアチームはFISポイントは取っているかもしれないが、リザルトの



大橋同様、4年後の期待が大きい石井智也(東海大)。バンクーバーには選ばれなかったが、新シーズンは後継者カンドグループの選手が揃いやすい環境を用意することがナショナルチームの重要な仕事になるだろう

混乱のオリン



上 GSのFECタイトルを取った松本勲人(白馬村SC)。SLで取れなかったことが残念だが、ワールドカップ出場への希望はつかんでいる。ナショナルチームを志望して大橋や石井とともに伸びてほしい選手
下 FECの女子SLのタイトルを取った岡本乃絵(富良野高→東海大)。女子ジュニアチームが計画的にこのタイトルを狙っていた成果。しかし、ワールドカップに挑戦するにはまだ足りないものは少なくない。大学1年目の愚こし方が4年後につながるかどうかの重要なポイントになる

1枚目にはほとんど入ることができていない。伸びている印象を得ることは残念ながらできなかった。

女子のジュニアもFISポイントは取っているものの、ナショナルチームの活動よりも所属チームの活動を優先させている川浦あすか(文化女子大付属長野高)が一番目立っていた。女子ジュニアは押味輝(慶舞中)、石川晴菜(舞鶴台中)ら中学生が伸びており、チルドレンとの連携がようやく形になり始めてきた時期なのでもう少し長い目で見る必要がある。男子のジュニアチームはど落胆はしないが選手はもともと自覚と自主性をもって戦わなければ4年後にオリンピックに出場するチャンスなどこない。

インターハイからスプリングシリーズまでを見れば、男子はチーム外の安藤佑太郎(北照高)や西村友希(名古屋高)らチーム外の選手が伸びている。彼らは、来

年はジュニアチームに選ばれる可能性が高いが、これだけの選手が揃っていないから誰一人として伸ばせないということは受け入れることができない。選手の自覚も重要だが、所属チームのコーチ、ナショナルチームのコーチの指導力が大きく問われる。

オリンピックに全力を傾注してきたナショナルチーム。シーズン終盤は予算もなくなり、死に体状態だったことで「ジャパンシリーズ全勝」を目指していた大越龍之介(東海大)や石井智也(東海大)が勝っていることに満足すればいいのかもしれないが、大越は無理がたたってFISスプリングシリーズ野沢で膝の靭帯を断裂しており、非常に残念なシーズンの終わり方をしてしまった。ソチ(2014)のオリンピックへのスタートは切られているのだが、いいことがほとんどなかったシーズンという印象が強い。